

科目名		呼吸病態学演習	
科目責任者	森本 泰夫	(呼吸病態学 教授)	
担当者	和泉 弘人	(呼吸病態学 准教授)	
開講時期:	2年次	単位数:	4 単位
		時間数:	90分× 30 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>職業性呼吸器疾患の病態モデルやスクリーニングモデル等の検討を通して、解明するためのアプローチを学び、さらにその意義を理解し、職業性肺疾患における病態を解明する手法を演習を通して理解する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 職業性肺疾患の特徴を論じることができる。</li> <li>2) 分子生物学的アプローチの手法を論じることができる。</li> <li>3) 分子生物学的アプローチの手法の意義を論じることができる。</li> <li>4) 分子生物学的アプローチを解析することができる。</li> <li>5) 職業性肺疾患における分子生物学的アプローチの意義を論じることができる。</li> <li>6) 職業性肺疾患において分子生物学的アプローチを応用することができる。</li> <li>7) 職業性肺疾患の生理学的基礎理論の応用ができる。</li> <li>8) 職業性肺疾患において分子生物学的アプローチ解析を応用することができる。</li> <li>9) 各病態モデルにおいて分子生物学的アプローチ解析を応用することができる。</li> </ol>			
● 評価方法	検討会での発表(40%)、レポート(30%)、討論(30%)等で総合評価する。		
● 参考文献	演習の中で必要に応じ紹介する。		

● 授業内容

回	内容	担当教員
1・4・7・10・13・ 16・19・22・25・28	動物モデルやスクリーニングモデル等を介して研究アプローチの手法やその解析方法の基礎知識の習得を図る。	森本
2・5・8・11・14・ 17・20・23・26・29	職業性肺疾患の病態、分子生物学的アプローチや画像解析に関わる論文をとおして、基礎知識の習得を図る。	和泉
3・6・9・12・15・ 18・21・24・27・30	研究アプローチの手法やその解析方法の指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な演習を行う。	和泉